

高退協ニュース

高知高退協
事務局
1998・5・12
No.92

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内二丁目一〇番八
T 087-821-6821
E 087-821-6821
L 087-821-6821
振替口座 徳島 511-1893

高退協の定期総会開く

新役員に小島真子、塩田能子、山脇正照さん

4月25日、高知城ホールで開かれた総会には35名が参加しました。司会に窪田充治さんを選出、この一年間に亡くなった8名のご冥福を祈って黙祷、新加入者の紹介のあと、坪井会長は挨拶で、日本の進路を県民の共同で拓く参議選の意義を強調し、西岡さんの必勝を訴えました。審議では、日高村の産廃施設をめぐる動きで補強意見や、老人保健法改悪で負担増になった外来診療費への補助を退職互助部に要請する提案があり、事務局の

経過報告や運動方針とともに承認されました。最後に、事務局員として活躍された上田速雄、加藤菊、竹島寛之、清洲和江さんの退任のあとに小島真子、塩田能子、山脇正照さんを選出、役員選挙委員では崎山正、山崎博幸さんが退任したあとに加藤菊、窪田充治、竹島寛之さんを選出して閉会しました。なお病氣療養で退任した上田速雄さんからは総会の成功を願う激励電が寄せられました。



退任の二挨拶

上田速雄

私儀、高校教員退職以来7年間（1992年4月以降、1998年3月末まで）色々お世話になりました。この度身体上の都合で、ノッピキならない事になりました。充分な職責もはたせなく、最後まで任務も完了せず途中で仕事をなげだすことを申しわけないと思っております。7年間皆様には、本当に色々お世話になりました。

清洲和江

このたび家庭の都合により、事務局員を退任させていただきます。一年目は、高退協20周年高教組50周年記念行事の準備のため、現職の時よりもはるかに多く「教育会館」に通い、高退協の力強い活動に驚き感激致しました。

私自身はたいした役にも立たなかつたことを申し訳なく思っています。個性豊かな先輩方からは沢山のものを吸収させてもらい、かつ親切にしていただいて、三年間がまたたく間に過ぎてしまいました。本当に有難うございました。これから高退協の活動に、出来るかぎり参加していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

あつとすぎた五年間、私の担当はおきやく係（望年会、夏季学習会のと、退職者を励ます会）と高齢者問題でした。飲食を共にすることによって、気持ちよく人と人をつなぐ和の係だと思えます。五年の間、それぞれの会の参加者も次第に増え、楽しみにして会になりました。高齢者問題では、高齢者の大会への参加、介護保険の

加藤 菊

新役員のご挨拶

小島真子

昨年、盲学校を退職した小島です。32年の教員生活のほとんどを障害児学校で過ごし、は、あまりなじみがありませんが、よろしく願います。退職したら、今までとまるで違った生活をしようと考えていました。本日はイ



勉強をさせて頂き、政府の老人福祉政策の非情を学び、義憤を感じたことでした。"老人よ立ち上がれ"のこゝとばが身に沁みます。今後の高退協の役割が示されたようにも思います。又、第二の人生を豊に生きていく姿、生・病・老・死のありのままを感じて頂きました。と勉強させて頂きました。協力もかく会員の皆様のご協力を終ることができました。ありがとうございました。ありがとうございました。

竹島寛之

事務局員の一人として5ヶ年参加させてもらいましたが、充分なことは何一つできませんでした。でもさすが高退協、事務局の会合は原則的であると伺い勉強になりました。退職後、孤立しがちな環境の中で、高退協は他に例を見ない組織として、親睦と学習と行動の場を与えていただきました。これからは高退協発展のため、多少なりとも役立ちたいと思っております。

山脇正照

Y先生からの電話で事務局員の件で説明を受けました。物忘れがひどい真つ最中自分には、無理な役だと思いつつも、少し考えさしてもらいたい。数日後、K先生より追討の電話でした。Y先生から話は充分聞いていたので、用心しながら相槌をうって聞いていました。さすが昔取った杵柄でしょう。両先生の話し上手にうまく丸められました。自分の気の弱さを後悔しました。事務局の先輩方の指導を受け、微力であっても協力せねばと心細い決意であります。どうかよろしく願います。

塩田能子

平成10年3月31日付で高知県立高知ろう学校を卒業しました。"どうしてる 会う人" "卒業後 ストレス消えた" "一日の流れにのれず" "通帳の 金が出てゆく" "昨日 今日 同じ時間に 生保の人と" 時間に拘束されず身も心もリラックスしすぎて、臍抜けにならないよう出来るだけ体を動かして、身を引き締めています。このたび、高退協事務局の常任委員を引き受けることになりました。心を引き締めてお荷物にならないよう取り組みたいと思います。新入生です。どうかよろしくお願い致します。

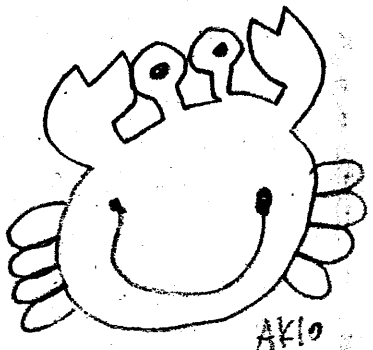
「寒東寺日記」抄
坪井 幹之

二月

「六日」腰痛のためしばらく遠のいていた「老泳会」に参加。桜の開花時期が話題に。季節はぐつと春めく。

「十五日」「山の会」の三月例会、讀枝財田駅より善蔵駅までウォーキング。十四名の参加あり。大陸の寒気団南下、「風雪流れ旅」となる。吹雪、霧、時には陽光を浴びながら八時間をかけて旧善蔵街道を歩く。途中、「展望休憩所」より雪雲の下灰色にくすむ讀枝平野を俯瞰、茶店跡の「二軒茶屋」で雪の舞うなか屋敷、一気に善蔵寺へ。参拝をすませて登山口までおられる。国道沿いの食堂で打ち上げ式のあし解散。

「十七日」高退協事務局会議。「ニュース」、参議選の資料発送の準備をすませて会議。総会の議案審議で時間がかかる。終了近くになって、上田速雄さん倒れる。急遽、愛宕病院に入院。諸活動からくる



盛大に
「退職者を励ます会」

定期総会につづく「励ます会」は、4階ホールに約102名が集まり、にぎやかに行われました。

今年の退職者は、勤評闘争直後の殺伐とした職場に働きがい求めて高等教組に加入した人びとが多く、こもこも語る思い出に胸を打たれるものがありました。

高退協からは44名が参加して退職者の労苦をねぎらい、友との再会をよるこび、遅くまで旧交を暖めていました。

退職者のうち当日までに18名が高退協に加入し、新年度は約355名の過去最高の会員でスタートするこ

過労であろう。一日も早い回復を祈念します。

「二十日」「老泳会」。スベリ山の桜五分咲き。明日は彼岸の中目。

「二十八日」読書会開かる。七名の参加。いわゆる「南京事件」が主題。加害者としての日本の責任、とくに軍部の無謀な作戦計画、この事件を歴史的に抹殺しようと策動している勢力、「自由主義史観」の反動的な流れなど話題にと欠かない座談に終始。次回は自然科学の分野から高退協会員の中内さんの「DNAがわかる本」と、今流行のホラ小説の中から「狗神」を取り上げることにして散会。

「三十一日」高退協の役員選考委員会開かる。崎山、山崎、小川の三委員参集。事務局会議での意見交換の様相を報告。対応を協議。そのあと慰労会。

四月

「三日」「老泳会」に参加。腰痛、魚の目、歯槽膿漏と医者通いが続いた。七十の坂はしんどい。年々歳々……、ス

「岩井清さん」昨年十二月中旬肝臓疾患で南国厚生病院に入院、一月下旬に退院。いまは家庭で療養中です。

「浜田浩一さん」昨年末以来高知生協病院に再入院中。

「上田速雄さん」三月十七日事務局で総会議案審議中に脳梗塞で倒れ、愛宕病院に緊急入院、経過は良好のよう。現在はリハビリ中。

皆様の一日も早いご回復をお祈りします。

会員への消息

- 〈再録〉慶弔内規
- (1) 死亡見舞 10,000円
 - (2) 米寿の祝 10,000円
 - (3) 入院見舞 3,000円 (入院期間が1カ月以上にわたる場合、本人または家族よりの申請に基づいて適用)
 - (4) その他、事務局会議が必要と認めた場合 相当額
 - (5) 運用の細目については、その都度事務局会議で検討の上執行する
 - (6) 適用は1992年4月1日以降とする

事務局では会員の動静について連絡を待っています。

ベリ山の桜も満開。

「七日」一時から総会議案の製本と発送準備。三時からやつと事務局会議。総会関係を中心に精神的に討議。総会議案を配りながら帰宅。

「十日」「老泳会」全員揃う。早くも山々は初夏の装い。

「十一日」「山の会」百回記念の山行で梶ヶ森に登る。参加者は林、大南、中平、上田、浜田、市川、坪井の八名。天気は快晴。道端は百花撩乱、豊永駅より六時間かけて頂上へ。その夜は「山荘梶ヶ森」に宿泊。記念総会と銘打って今後の会の運営を話し合う。入浴後、大宴会。桑原さんよりの祝電、差し入れに感謝、感謝。

「十二日」雨が近いという天気予報に反して晴上がる。杖立峠を目指して林道をくだる。二時間ほどで道が切れ、大急ぎ山荘へ引き返し、前日のコースで豊永駅へ。次第に雲が広がりがつあったが、雨にはあわず、缶ビールで乾杯。四時過ぎの列車で無事帰宅。

悪政阻止

第69回ミーデー

5月1日、高知市の中央集会は緑鮮やかな丸ノ内緑地に、約千三百人が集い行われました。

国松県労連委員長は労働法制改悪阻止とともに参議院の勝利を訴え、来賓の西岡さんは悪政の流れを変え、議員は目にもものをみせるた

たかいを呼びかけました。高退協からは20名近くが参加し、高教組につづいて紺の旗をかかげて元氣に行進、終了後は緑地の芝生でビールでノドを潤しながら現職との懇親を深めました。

〈お願い〉 該当する方がおいましたら、事務局までお知らせ下さい。



「二十四日」「老泳会」に参加、いつもの距離を泳ぐ。連日、雨。菜種梅雨か。

「二十五日」高退協総会。会場満席。予定の議事滞りなく終了。五時より恒例の「退職組合員を励ます会」に出席。乾杯の音頭で「西岡必勝」を

「北岡必勝」と言い間違。老人性痴呆症進行中、ご寛容のほどを。満期まであと二年、なんとか頑張らねば……。

「二十九日」高退協と高校退職者後援会との打合せ会。参議選の情報交換と最終段階のとりくみについて協議。

「三十日」「山の会」総会を県教組会議室で開く。二十五名参集。これからの会の運営について協議、結局運営委員会を企画、運営をはかることとなり、五名の委員を選出。総会終了後、当面する「北歐ツアー」の打合せ会を持つ。



腰痛痛記

坪井 幹之

随分昔から腰痛に悩まされている。ウン十年前に足に痺れがきたので、田中整形外科で診てもらったところ「腰椎間板ヘルニアで全治不能」との宣告を受けた。爾来、散歩、体操、水泳、節酒(うそつけ!)と闘病を続けてきたが、年に数回、痛みがやってくる。

その都度、一週間程度のお付き合いを余儀なくされる。ところがこの二月に見舞われた今年最初の腰痛はなかなかしつこく、内臓疾患ではないかと心配になり、とうとう生協病院へ駆け込んだ。レントゲン検査の結果、背骨の異常と判明。車で言えば部品の一部が破損、部品交換という段階だが、残念ながらこの部品は製造されていない。鎮痛剤と貼付剤で一時しのぎをする以外に打つ手はないようだ。腰痛は、地球重力に抗して直立歩行を始めたホモ・サピエンスの宿痾である。わが人類は腰痛を代償に文明を手にしたわけか。妙手はないとは思いますが、あなたも有効な治療法をご存じないでしょうか。紙上を借りてお伺いする次第です。